

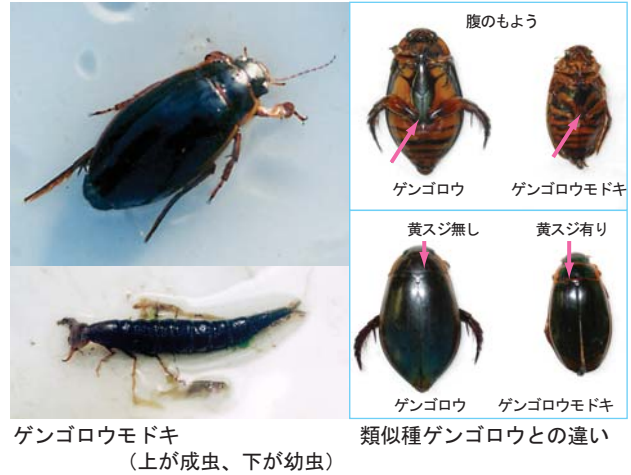
ゲンゴロウモドキ

Dytiscus dauricus

ゲンゴロウ科

名前の由来

「源五郎が池でフナになり、ゲンゴロウブナと呼ばれるようになった」という民話（→興味深い話の項参照）があり、そのゲンゴロウブナを食べていた虫をゲンゴロウと呼ぶようになったと考えられる。モドキとは類似したゲンゴロウ属と区別するためである。漢字名：源五郎擬



ゲンゴロウモドキ
(上が成虫、下が幼虫)

類似種ゲンゴロウとの違い

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシタカ

形態的特徴

成虫の特徴：30～36mm。長卵形で、固くて丈夫なサヤのような前翅を持つ。背面はわずかに緑色を帯びた黒褐色で、黄から黄褐色の縁取りがある。腹部腹面には暗色紋がある。
幼虫の特徴：肢の爪は2本、大顎は長く管状、肢は長く遊

泳毛がある。体は長く尾突起は短い。（ゲンゴロウ亜科）
類似種と見分け方：エゾゲンゴロウモドキ。エゾゲンゴロウモドキの腹部腹面には暗色紋が無い。またゲンゴロウ(種名)は34～42mmと大きく、下ぶくれ型。

生息環境・分布

ヨシなどが茂り湧水のある池、時には水溜まりにも飛来する。水の中だけでなく、空中も飛ぶ。

分布：国外分布は、樺太・ウスリー・シベリア・北米大陸

北部。国内分布は、北海道・本州（青森県）。北海道内では、普通に分布。十勝地方では、普通に分布。

食性・他の生物との関わり

他の小動物を捕食。特にオタマジャクシを重要な餌とするが、1齢幼虫初期には逆に食べられることもある。

繁殖生態・寿命

5月頃から水中植物内に産卵。飼育下では3年以上生きる。

興味深い話

- 飛行前だけでなく日常的に甲羅干しを行う。
- ゲンゴロウ科の多くはオスの前肢が幅広く吸盤状であり、交尾時にメスを捕まえるのに役立っている。
- ゲンゴロウモドキのメスには上翅に筋のあるものと無いものの二型がある。
- 成虫は、空気を翅（はね）と腹の間に貯えて水に潜る。
- 「源五郎の天昇り」という民話のあらすじは以下の通り。ある日、源五郎という農民が太鼓を叩くと鼻が伸び出した。

その鼻は天まで届き、雷様に天井に打ち付けられてしまった。困った源五郎が再び太鼓を打つと鼻が元に戻り、天に昇ってしまった。天上で雷様と遊んでいる内にウツカリ足を踏み外し、地上の池に落ちてしまった。源五郎は池でフナになり、ゲンゴロウブナと呼ばれるようになった。
■ 十勝地方のアイヌ語ではゲンゴロウ類を「トールンペ」と呼ぶ。

配慮事項

岸辺の土中で蛹になるため、土壌が露出していることが重要。小動物が豊かな池沼も大切。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期						■						
成虫期	■											

参考文献

「改訂版図説日本のゲンゴロウ」森正人・北山昭 文一総合出版 2002
「名前といわれ昆虫図鑑」大谷剛・栗林慧 偕成社 1999
「日本産水生昆虫検索図説」川合禎次 東海大学出版会 1995
「水生昆虫完全飼育・繁殖マニュアル」都筑裕一・谷脇晃徳・猪

田利夫 データハウス 1999
「滋賀の水生昆虫・図解ハンドブック」谷田一三・竹門康弘 監修 滋賀県小中学校教育研究会理科部会 編 新学社 1991
「アイヌと虫の生活誌」井上壽、釧路アイヌ文化懇話会 2006